

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2023年8月3日
明治大学の所属学部・研究科	国際日本(学部/ 学科/ 研究科/ 専攻等)
留学(渡航)した時の学年	4年生
帰国年月日	2023年7月7日
明治大学卒業予定年月	2025年3月
留学先大学について	
留学先国	イギリス
留学先大学	シェフィールド大学(日本語名) University of Sheffield(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/ 英語
留学期間	2022年9月～2023年7月
留学先大学で在籍した学年	3年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語):社会学部 (現地言語での名称):Department of Sociological Studies <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 記入例:1学期/4月上旬～7月下旬、 2学期/9月中旬～2月上旬	1学期:9月下旬～12月中旬 2学期:2月上旬～6月上旬 3学期: ~ 4学期: ~
学生数	27947
創立年	1828

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (£)	日本円	備考
授業料	0£	0円	協定留学の為明治大学の授業料
宿舍費	6,782.58£	1,153,038.6円	Allen Court/ City / Ensuite+寮
食費	3341£	568000円	旅行中の食事・誕生日パーティー予算含む
図書費	25£	4200円	基本的に論文はコピー機でプリントアウト
学用品費	12£	2000円	
携帯・インターネット費	120£	20160円	月々9£＋充電コード2本購入
現地交通費	50£	8400円	トラム乗車賃(☑大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	5011£	852000円	旅費や美術館・劇場チケット代含む
被服費	60£	10080円	服は基本的に日本から持参
医療費	12£	2016円	体温計を購入。その他生理痛薬・鉄剤など
保険費	588£	100000円	形態:東京海上インターナショナルアシスタンス
渡航旅費	1865£	313320円	5万円の荷物超過料金含む
ビザ申請費	363£	60000円	
雑費	200£	34000円	家具・調理器具諸々
その他		円	
その他		円	
合計	18395.38£	3127214.6円	この内現地で使用した資金約150万円 明治大学より奨学金30万円

渡航関連			
渡航経路			
往路 出発地:成田空港 目的地:ヒースロー空港 経由地:ドバイ空港			
復路 出発地:マンチェスター空港 目的地:成田空港 経由地:ドバイ空港			
渡航費用			
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金:			
② 片道ずつチケットを購入した場合			
往路	航空会社:エミレーツ航空	料金:121,180.00円	
復路	航空会社:エミレーツ航空	料金:143,320.80円	∴合計:264,500.80円
航空券購入方法			
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:)			
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:エミレーツ航空公式 WEB)			
<input type="checkbox"/> その他()			

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍など)
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: Allen Court) <input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2)部屋の形態
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数)
3)共有部分
<input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4)住居を探した方法:
協定先の大学のホームページより検索。以前、シェフィールド大学に行かれた先輩の報告書に City にしておかないとキャンパスまで徒歩 30 分強あると書かれていたため City にある Ensuite(風呂・トイレが共有ではない寮)を選択。なお、大学 WEB サイト上で City の Ensuite を選ぶとすると Ensuite+しか選択肢が無い模様。
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
私が滞在了 Allen Court の長所を挙げると、非常に設備が整っており快適で床もフローリングで掃除しやすく、寮の共有スペースとして提供されているシアタールーム、卓球台、全て快適であった。加えて、セキュリティ面も受付が24時間デスクに居てくれる為、緊急時も安心できた。短所を挙げるとするならばまず洗濯機が壊れやすい上に高い。1度洗濯機と乾燥機を使用するだけで千円弱取られてしまう。加えて寮の値段が高すぎる。Allen Court は Studio という自室にキッチン完備の寮よりも値段が高いケースが多く見受けられた。どうやらイギリスでは大学寮が最も値段が高いらしい。必ずしも大学指定の寮を使用する必要はないように感じた。
現地情報
1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所:)
2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等:基本的に友人と両親。必要な場合に銀行職員・大学職員に直接問い合わせ)
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?
同じく現地で大学に通っている友人や、Societyと呼ばれるサークル活動での先輩にお話を伺うなどした。また、アジア人を特定して狙うナンパ等の情報も友人経由に耳に挟みSocietyでは気を付けるようにしていた。また、薬物が日本と比べて手に入りやすい場所でもあり、特にマリファナはWeedsと呼ばれ頻繁に吸われている状況で、友人に特有のにおいを教えてもらい、においがする場では極力息を吸わないように気を付けていた。盗難対策としては、ベストのような鞆をコートの下に身に付け、スマホは常に手で持つかベストの中に入れておくことで1度も盗難被害に遭うことは無かった。
4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)
私が使用していたSIMは日本にあるイギリスVISAセンターでいただいたLebaraという会社のものだが、特にこれといって問題はなかった。基本どこにでもWIFIが通っている国なので、データが低速になってしまった場合でも、店や電車に乗るなどすれば大抵FreeWIFIに繋げる事が出来た点も助かった。一点注意しなければならない点は、ロンドンの Underground(Tube)に乗車する際は一切のデータおよびWIFIが通じなくなる事だ。その為、事前にルートを検索したうえで乗車される事をお勧めする。
5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)
寮費の支払いが日本の銀行口座では一括で支払えず、現地にて HSBC.UK で口座を開設し、そちらに親から送金してもらう形で解決した。繁忙期との理由で Student Account を開く為に2か月も待たされた上、国籍をイギリス人として誤って登録されてしまい、税金義務の解除など厄介な手続きを踏まないといけず、非常に大変だった。しかし、現地で友人同士での送金などの際に口座が無いと困るので、今後留学に行かれる方々にお勧めしたいのは Revolut というアプリを入れて口座を開設する方法である。このアプリでは直接日本銀行のデビットカードを紐づけるのみで口座を開き無料で日本円から£に換金できるため非常に便利だ。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。
入手が困難なものという点でいうと、コンタクトレンズと風邪薬、体温計があれば困らないと感じた。
7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
115(ECTS55)単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: 法学部の講義全般とその他学部でも特定の知識を要する科目には制限があり受講不可	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Whiteness, Power and Privilege	白人至上主義-権力と特権-
科目設置学部・研究科	社会学部
履修期間	秋学期
単位数	20単位 (ECTS10単位)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式×1と少人数セミナー×1が週に1回ずつ(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に1時間分が2回
担当教授	Dr. Jo Britton
授業内容	権力関係のシステムとしての人種差別を理解するために、白人性を研究することの重要性を探求する。なぜ白人性研究が、より広範な人種と人種差別の研究において重要な焦点となっているのかを説明し、いくつかの重要な新たなテーマを批判的に検討する。これには、核となる理論的・概念的問題を探求し、時間的・空間的な社会的不平等を理解する上での白人パワーと特権の関連性を評価することが含まれる。また、白人性の交差する人種的、階級的、ジェンダー的境界線を探求することも含まれる。このモジュールの主な目的は以下の通りさまざまな社会的・政治的文脈における白人性の意味と役割を探求する。次に人種的不平等を再生産する力関係の中で、白人性がどのように作用しているかを調査する。そして人種差別を社会的に理解する上で、白人性を研究することの重要性を示すために、「白人性研究」の歴史と白人性の理論の両方を批判的に考察する。最後に白人性、社会階級、ジェンダーの関係を評価することによって、人種的アイデンティティの社会的・政治的構築を検討する。
試験・課題など	3500字の期末エッセイ
感想を自由記入	非常に興味深いテーマで、特に人種差別というものに対して身をもって触れてこなかった自分として英国社会の構造をより深く理解させてくれた講義の一つであった。一つ難点を挙げるとするならば、課題が非常に重いので莫大な時間と労力を要するほか、他の課題との両立が難しくなる。先生の採点は易しく、参考文献数が最低5個以上と非常に少なくとも可能な点はとてもよかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Digital Identities	デジタル社会における自我と個
科目設置学部・研究科	社会学部
履修期間	秋学期
単位数	20単位 (ECTS10単位)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	1時間の講義 10回、1時間のセミナー9回、1時間のアセスメント Q&A セッション 1回で構成される。(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に1時間分が2回
担当教授	Dr. Ysabel Gerrard
授業内容	このモジュールでは、デジタル時代にアイデンティティがどのように再構築されているかを探求する。様々な文脈におけるユーザーのデジタル・アイデンティティを検証し、異なるアイデンティティ間の交差に細心の注意を払いながら、人々のアイデンティティ交渉におけるインターネットやソーシャルメディア・テクノロジーの役割を深く理解する。加えて、初期のデジタルメディアにおけるアイデンティティの形成に関する議論を振り返り、匿名性と偽名性、自撮りと自己表象、ソーシャルメディア・コンテンツの節度といった現代の関心事について考察する。
試験・課題など	1000字の中間エッセイと 2500 字の最終エッセイ
感想を自由記入	海外での匿名性と日本での匿名性の受け取り方の違いを学べた点が非常に興味深かった。また、イギリスで用いられているマッチングアプリのプラットフォームについても学ぶことが出来たので良かった。課題として提示される質問が毎度難しく、先生の採点も厳しい為、高得点を狙いにくい科目ではあるように感じる。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Geer Theory and the Media	クィアセオリーとメディア
科目設置学部・研究科	社会学部
履修期間	春学期
単位数	20単位 (ECTS10 単位)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2時間のワークショップ 10回で構成され、対面式で行われる(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に2時間分が1回
担当教授	Dr.Phoenix Andrews
授業内容	このモジュールでは、クィア理論を紹介し、ジェンダーとセクシュアリティがどのように構築され、表現され、表現されるかについて、さまざまなメディアの役割について議論します。クィアという言葉の活動家と学術的起源をたどり、新聞、映画、ジン、ブログ、ソーシャルメディア、出会い系アプリなど、主流メディアとオルタナティブ・メディアにおけるクィア(自己)表現を探求します。また、こうした表現が、男性対女性、男性的対女性的、異性愛者対同性愛者という二項対立をどのように促進し、あるいは挑戦しているのか、さらには、ジェンダーとセクシュアリティに関する特定の理解を促進しながら、どのように世界中を駆け巡っているのかについても考察する。
試験・課題など	中間課題にクィア雑誌 Zine の提出、期末課題に3000字のエッセイ
感想を自由記入	自分が何より学習したかったクィアスタディーと、将来職に就けたいと考えているメディアが交差する授業だったので、見つけた瞬間に受講する事を決めた講義だ。Zine の制作では一度著作権などは気にせずに、自分がクィアであると感じるアニメやドラマ等のキャラクター、政治的事象などを雑誌の切り抜きやインターネットで拾った画像をコラージュするような形で講義で学習したクィア理論を基に分析するというもので、非常に心躍る課題であった。期末課題も多岐にわたるテーマから自分で決めることができた為、非常に自己の裁量が大きい、主体的に取り組める授業であると感じた。自分が留学先で行ったかった日英比較を余すことなく達成できたので非常に感謝している講義である。先生の採点はどちらかというと易しい方であった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Data Driven Storytelling		根拠に基づく報道の展開	
科目設置学部・研究科	報道学部		
履修期間	春学期		
単位数	20単位(ECTS10 単位)		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	対面式での講義が週に1回1時間、少人数でのグループワークセミナーが週に1回2時間(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に3時間分が1回		
担当教授	Will Oliphant		
授業内容	データ主導の報道アプローチは、今日の世界で人気と重要性を増している。米国のニューヨーク・タイムズや英国のガーディアン、プレス・アソシエーション(その他世界中に多数)など、確立されたメディア機関には、すでにデータ・ジャーナリズムを専門とする部署がある。従って、次世代のジャーナリストにとって、データ・リテラシーを身につけ、データをどのように検証し、ストーリーを見つけるだけでなく、ストーリーを伝えるために利用できるかを理解することが不可欠となっています。このモジュールは、データを扱うことに自信と慣れを持ち、さらにデータ主導型、分析型、調査型ジャーナリズムのためのジャーナリズム・ツールキットを広げることを目的とする。		
試験・課題など	中間課題にグループでのプレゼンテーション、期末課題にグループでの 2000 字の記事提出と 10 分間の個人ビデオ課題提出		
感想を自由記入	シェフィールド大学の良さの1つに自身の所属している学部以外の講義を受講できるという点があるのですが、この講義もその1つです。IELTS の最低要を 7.5 とする報道学部だけでなく、非常に難解な授業でしたが、ジャーナリズム的観点に基づくデータの読み方や、インフォグラフィックの作成、そのための Excel の使用方法、そして学者さんや教授への実践的なインタビューなど多様な知識を吸収して帰ることができました。非常に実践的な授業で、特に、グループメンバーとともに記事を書ききった際の達成感はいまだに味わったことない新鮮な感覚でした。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Politics, Economy and Society in Japan		日本の政治経済	
科目設置学部・研究科	東アジア研究学部		
履修期間	春学期		
単位数	20単位(ECTS10 単位)		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	1時間の講義が5回と1時間の少人数セミナーが12回(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に1時間分が2回		
担当教授	Dr Fumihito (Fumi) Gotoh		
授業内容	このモジュールは、戦後日本の政治、経済、社会の入門である。日本の文化と社会の特徴とは何か、また、国内の利益集団、社会文化規範、主に欧米や中国からの外部影響との相互作用が、現代の日本の政治と経済をどのように形成してきたかを探求する。杉本氏の「日本社会入門(第2版:電子版、第5版:印刷版)」をメインテキストとし、関連する学術書も多数使用し、様々な学者の研究課題、理論、概念、主要な主張、そして彼らの著作の貢献と欠点を検討することで、日本に関する主要なトピックを調査する。このモジュールのトピックには、国内の主要なアクターと文化的規範、中国やアメリカとの国際関係、アメリカ主導の自由主義的国際秩序の影響(グローバル化、金融資本の影響力の増大、デジタル化を含む)、労働の非正規化、人口動態、ジェンダー問題などが含まれる。また、現代日本の主要テーマについて学ぶための講義も行う。ゼミでは、毎週のトピックについてグループ・ディスカッションを行う。		
試験・課題など	最終課題として読書感想文の2000字エッセイ		

感想を自由記入	イギリスで日本の政治経済がどのように教えられているのに関心を抱いて受講。日本学部がある大学だけでなく、教師も日本人が教鞭をとっており、事細かな政治的事象から社会規範、日本企業の構造まで丁寧に説明されていた。少人数セミナーでは毎回ディスカッションを行う時間があり、イギリス人の視点から見た日本社会の意見を聞いたことは非常に良い経験になった。特に40代のマスターの生徒さんは日本の市場規模に着目しつつ、経済学的な視座から常に鋭い意見を述べており、議論を交わす度、彼女の日本に対する深い知識量に驚嘆した。
---------	---

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Gender, Sexuality and Society	ジェンダー、セクシャリティと社会
科目設置学部・研究科	社会学部
履修期間	春学期
単位数	10単位 (ECTS5 単位)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	対面式の講義が毎週1時間計10回(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に1時間分が1回
担当教授	Professor Sally Hines/Robin Todd
授業内容	このモジュールでは、「ジェンダーとは何か」「セクシュアリティとは何か」「なぜ社会的に重要なのか」といった主要な疑問に答える。また、ジェンダーを研究する上で重要なテーマと概念を紹介。次にジェンダーとセクシュアリティを理解するさまざまな方法を検討する。就中ジェンダーをめぐる様々な社会的分析が、生物学的モデルをどのように問題視しているかを検証していく。更にこの講義では、ジェンダーとセクシュアリティに対する、フェミニズム理論と政治学の中からのさまざまなアプローチを見ていく。ラディカル・フェミニズム、リベラル・フェミニズム、ポストコロニアル・フェミニズム、トランス・フェミニズムなど、さまざまなフェミニズムのアプローチを検討する。その他、①セクシュアリティのカテゴリーとアイデンティティをめぐって組織されたさまざまな社会運動の学習②イギリスにおけるラッドカルチャーと呼ばれる男性性、「有毒な男らしさ」や「覇権的男らしさ」といった重要な概念について考察し、男性的アイデンティティと表現の複数の形態を研究③ダイエット、タトゥー、身体改造の例を用いたジェンダーとセクシュアリティの身体性④トランス研究の成果を活用し、この研究分野が男性と女性という二元的なカテゴリーからのみジェンダーを考えることの限界をどのように示しているかの考察⑤インターセクシュアリティと呼ばれるジェンダーとセクシュアリティの生きた経験が、人種、階級、障害といった他の社会的カテゴリーとどのように組み合わされているかを考える等、ジェンダーとセクシャリティを多岐にわたる視点から研究する。
試験・課題など	期末課題として 1500 字の最終エッセイ
感想を自由記入	こちらもちまた、自分が知見を深めたいと考えていたジェンダー学の授業の為に履修。社会学部1年生向けの講義は全体としてセオリーの深い理解を求められるため、ジェンダー論において常々知識不足だと感じていた自分にとって、非常に勉強になる授業であった。また、講義を担当して下さった Robin Todd 教授が本当に心優しく丁寧な方で、メールで質問をすると常に3種類以上の参考となる論文や文献を提示して下さり、大変助けられた。自分の視野を広げる手助けをしてくれた講義である。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
未だ就職先を確定したわけではないが、リクナビ、ビズリーチ、あさがくナビを活用。
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
映画業界、広告業界、中でも広告代理店もしくは傘下にある制作会社での就職を志望。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
自分の最も大きな後悔として留学に行く前に ES を仕上げておくべきだったという気持ちがある。ES と学力が1つ完成しているかないかで大きな差が生まれる。また、クリスマス休みやイースター休みを活用してイギリスでのインターンにも参加したかったという後悔も強い。しかし、課題が特に最初の学期は不慣れな事ばかりで適応していく事がとても大変であるため、こちらもまた留学前にできる限り下調べを終えておくことに余裕が生まれるのではないかと感じた。反対に、留学に行ったことによって自身の中に起きたポジティブな変化としては、ぼんやりと特定の業界志望するのではなく自分が本当にしたい仕事像の解像度を上げることが出来た点であると感している。以前は興味のある産業や職種ばかり調べていたのを、実際に自分の行いたい業務内容を深く掘り下げ、業界はあえて特定せずに幅広くインターンや業界研究を進めることで以前は見えてこなかった進路もプランとして考えるようになった。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	絶対にイギリスに行きたいという意思があった為、GPAを3.0以上にすべく奮闘
	4月～7月	春学期の課題提出・サークルの幹部の引継ぎ・コロナワクチン接種2回目完了
	8月～9月	英語の資格勉強に力を入れ始める。留学用資金を貯金する為にバイト。
	10月～12月	TOEFLibtよりもIELTSの方が自分に合っている事に気づきIELTSの対策・受験
留学開始年	1月～3月	留学の合格通知を受け取る。協定先の志望書の作成・書類整理・奨学金応募
	4月～7月	志望学部に入るべくILETSを勉強6.0→6.5に。VISAの手続きは6月から開始
	8月～9月	VISAの受け取り・航空券購入・ワクチン接種完了・滞在するホテルの予約
	10月～12月	秋学期の講義を3つ受講。Societyや大学主催のプログラムに積極的に参加
留学/帰国年	1月～3月	1月初の期末課題提出。学外活動との両立に苦しむ。2月から春学期開始
	4月～7月	春学期の課題(4月中旬6月期末)提出に奮闘。帰国便は5月に購入。7月帰国。
	8月～9月	7月を茫然自失で過ごしてしまい8月から本格的に就職活動を始動。
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

①志望理由

私がこの留学を志望した動機は高校時の留学経験の悔しさを払拭する事と、日本という国を外からの視点で俯瞰して見れるようになる事の二点だ。高校1年次、2か月間のイギリス留学プログラムに参加したのだが、最も印象に残ったことは英語で会話を続けることのできない自身への不甲斐なさだった。明治大学の協定留学では、1年間と長期にわたって留学できる事から、過去の悔しい経験を克服することが出来ると考えた。加えて、留学は日本という国を外から大局的に見る事が出来るまたとない機会でもある。日本人は自国について説明する際、頻繁に自国を卑下する人を見かける。しかし反対に、イギリスでは母国への強い誇りといった印象を過去2か月間滞在して感じた。この違いはどのような歴史や社会的背景のもとに生まれているのか、調べに行きたいと考えた。加えて、イギリスは GAY District と呼ばれる SOHO があつたり、女性による女性の為の選挙権獲得運動サフラジェットが起きた国であり、ジェンダー学に強く関心を持っていた私にとって最適な留学先であると考えた。

②シェフィールドを選択した理由と大学の雰囲気

Sheffield 大学を選択した理由は、イギリスで最も大きな Student Union と呼ばれる生徒連合がある点と、丁寧に観光地を巡りたいと考えていた London と Edinburgh の中間地点に位置していたからだ。Student Union とは日本でいうサークルを運営する組合のようなもので、他にも様々な大学のイベントやフィールドトリップなどを企画している。シェフィールド大学はイギリス1の規模と名乗るだけあつてたくさんの Society があり、様々なバックグラウンドを持つ友人を作るきっかけを得られやすいと考えた。大学の雰囲気は総じて国際色が豊かである。ヨーロッパのみでなく、中国や香港、台湾、韓国、バーレーン、パキスタン、ミャンマー、インドなど多様なアジア人学生も在籍しており、イギリスだけでなく、アジアの知見も深める事が出来た。授業や課外活動でも常に様々な国の人と話す機会があり、価値観や文化的慣習の違いなど、常に刺激的だった。しかし、白人系とアジア人系グループが明確に分かれていて、自分が属さないグループの子と話すのは非常にハードルが高かった。

③郊外活動・交友関係

私は、有難いことに非常に恵まれたフラットメイトたちとフラットを共有する事が出来、彼女たちと大学主催のフィールドトリップに参加した他、Society と呼ばれるサークル活動のようなものを通して次第に交友関係に広がり生まれた。シェフィールド大学は、日本学部と呼ばれる学部があるほど、Asian Studies の研究が進んでいて、Japan Society にはそのような日本学部在籍されている生徒たちのほか、日本という国に興味関心を抱いている人たちが多く、共通認識を作りやすい為、短い期間でもすぐに距離が縮まって行くのを体感した。加えて、Catholic Society が開催している International Café では沢山の心温かい人たちが集まって、定期的に Society メンバーの交流が深まるようにクイズ大会や月ごとの催しを開催してくれる為、大変助けられた。

④困ったこと

現地で大変だったことは、頻繁に発生する教師陣の給料ストライキと、現地での口座開設だ。まず、前者に関しては教師陣が給料の底上げを要求するストライキにより出払ってしまい、春学期の初めの2週間程全く授業が受けられない状況に陥った。中には Week 7まで授業を開講しないという教師もいて、友人のアドバイスを基に新しいモジュールを選択した。後者に関しては、寮費の支払いが日本の銀行口座では一括で支払えず、現地で口座を開設しようとHSBCへと出向いたのだが、繁忙期との理由でStudent Accountを開くのに2か月も待たされた上、国籍をイギリス人として誤登録され、税金義務の解除など厄介な手続きを踏まないといけず、非常に大変だった。しかし、現地で友人同士での送金などの際に口座が無いと非常に困るので、今後留学に行かれる方々にはRevolutというバーチャルで口座が開ける事が出来、日本銀行のデビットカードを紐づけるだけで円換金が可能になるアプリを強くお勧めする。

⑤今後留学される方へ

風邪薬とコンタクトレンズはイギリスで手に入りにくいので、大量に持っていかれることをお勧めします。そして、何より重要だと感じたのは積極性です。時にこれは英語力よりも大切だと考えています。講義でも日常生活でもわからないことがあれば積極的に質問し、フラットメイトと会ったら自分から話しかけたり、買い物に行こうと誘ったりなど、本来奥手な自分では考えられないほど積極的に動いたと自負しています。無論毎回成功したわけではなく、空回りする事の方が多かったですが、そのおかげで沢山の素敵な人に巡り会うことが出来たので後悔はありません。今後留学に行かれる皆さんもぜひ後悔のないようにたくさん話しかけに行ってみてください。きっと温かい人達が待っていると思います。